

頑張ろう
東北!!

震災復興支援!!

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被災地では、復興に向けた歩みが続いています。こうした復興支援の一助となるべく、本年4月に鹿屋市役所から岩手県の大船渡市役所に1年間派遣された栗脇幸仁主任技師に話を聞きました。



▲震災直後の大船渡市



くりわきゆきひと
栗脇幸仁主任技師

◎大船渡市の紹介をお願いします。

▲岩手県の沿岸南部に位置する人口約4万人のまちであり、三陸沿岸地域の拠点都市です。水産業や窯業、木材加工業等が主な産業であり、特に水産業は、三陸漁場という世界有数の好漁場にも恵まれ、基幹産業となっています。

また、大船渡港は国の重点港湾に選定されていて、県内トップの貨物取扱量を

誇るとともに、大型客船等も寄港するなど物流・観光の拠点となっています。

◎派遣に応募した動機を教えてください。

▲土木技師として鹿屋市役所に入庁し、12年間培ってきた土木の知識を生かして、東日本大震災の復興に少しでも貢献したいと考えたことが応募の動機です。

◎どのような業務に従事していますか。

▲私は「水産課漁港漁村係」に所属しており、主に市営漁港の災害復旧工事に関する業務を担当しています。水産課は全員で28人の職員がいて、水産流通加工振興

や水産物の増殖、担い手育成に関すること等のソフト事業と、水産事業の基盤となる漁港整備等のハード事業を行っています。

◎他の自治体等からも職員が派遣されているのですか。

▲水産課には、東京都や岩手県、山口県宇部市といった地方自治体や、国の復興庁からも職員が派遣されており、私を含めて9人の派遣職員がいます。

また、大船渡市役所には、全国から73人の職員が派遣されており、復興に向けた各種業務に従事しています。



September 2013

◎復興状況や、現在のまちの様子などを教えてください。

▲電気や水道などのライフラインの復旧については市のほぼ全域で完了し、日常生活における不便等は、かなり解消されていると思いますが、「住居の再建」と「生業の再生」が最優先の課題です。仮設住宅での生活が続いている人も多く、また、農地の再生などが手付かずの箇所もあるため、これらの解決に向けて、260を超える事業からなる「大船渡市復興計画事業」に市を挙げて取り組んでいます。

7月5日には天皇・皇后両陛下が大船渡市にお見えになり、復興状況について説明を受けられた後、市内各所を視察されました。

一方で、まちに活気を取り戻す様々なイベント等も行われています。市内には「基石海岸」と呼ばれる景勝地があり、5月の連休時には大勢の人数でにぎわいました。8月には「三陸・大船渡夏祭り」や「盛町七夕まつり」など、市の代表的な祭りも開催され、私も地域の皆さんと楽しみました。



▲盛町七夕まつり

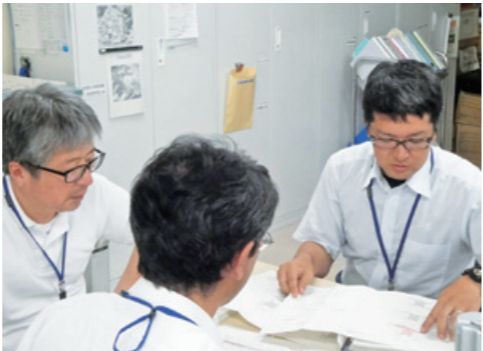


三陸・大船渡夏祭り

◎住んでみて、生活面で変わったことや印象に残ったことを教えてください。

▲大船渡市は、東北地方としては冬も温暖で積雪量も少なく、また夏は真夏日がほとんどなく涼しいため、年間を通して過ごしやすいようですが、夏場は海沿いで濃霧が発生するため、朝夕の車の運転等には注意しています。

方言についてはですが、地元の皆さんは、私のような他県の人と話す際には分かりやすく話してくださいとの声が多く、不自由はありませんが、地元の方同士の日常会話は、残念ながらまだ半分も聞き取れません(笑)。た



だし、他の派遣職員に言わせると、鹿児島弁も聞き取りにくいとの事らしいです(笑)。

◎これまで一番嬉しかったこと、一番苦労したことを教えてください。

▲嬉しかったことは、町内会の皆さんが私の歓迎会を開いてくださったことです。自分を受け入れてもらったと実感した出来事でした。苦労を感じることは、あ



◎間もなく派遣期間も折り返しを迎えますが、今後の抱負を聞かせてください。

▲漁業者の皆さんが、震災前の水準で水産活動ができるよう、現在担当している漁港の一日も早い復旧に向けて、努力していきたいと思えます。

